小澤　實　選

るるるるると干瓢とばす機械剝き
宮崎市　長友　聖次

【評】夕顔を機械を使い剝いている。「るるるる」というオノマトペが、軽々として、調子がよくて、たのしい。「とばす」もなかなか快調そう。

「干瓢剝く」の現在を捉えた。

稲光横を走るや七合目
蓮田市　条川　武勇

【評】稲光がまさに我が身の横に走った。地上ではありえないところ。七合目が効いている。富士登山での詠のようだが、無事でよかった。

夕立や一人下校の転校生
吹田市　前田　尚夫

【評】夕立のなか、一人で下校していく生徒がいる。転校生で、まだ親しい友だちができないようだ。心配だが、声をかける勇気もでない。

シャワー浴ぶ明日は今日よりうまくいく
川越市　大野宥之介

夏めいて猫のもらい手現るる
佐伯市　高山　千恵

炎昼やエレベーターの点検中
横浜市　岡　まゆみ

マネキンや新作水着にてポーズ
熊谷市　間中　昭

供出の軍馬墓なし終戦日
川越市　石田浩二郎

カタヌキの屋台に小さき扇風機
小諸市　藤　雪陽

枝豆やぷちゅっぷちゅっと飛び出たり
宇都宮市　佐藤　順子

津川絵理子　選

ズッキーニの輪切りスパスパ梅雨明けよ
横浜市　宮川　ゆず

【評】いい加減に梅雨が明けてほしい、という願いが「梅雨明けよ」と命令形になった。ズッキーニを切る包丁の切れ味も良い。スパスパ切って、気分はもう夏本番だ。

眠れぬ夜月下美人と飲み明かす
大船渡市　富谷　英雄

【評】眠れない夜に酒のグラスを傾けながら、月下美人が咲くのを見ている。月下美人を擬人化したことで、辛い夜が何やらロマンチックに。

生きるなと言ふ炎天に立ち向かふ
宇都宮市　古田久美子

【評】「生きるな」という声が本当に聞こえそう。動物も植物も死ぬほどのこの暑さ。厳しい自然に対峙する、死に物狂いの感じがある。

猥談のあとの縁談夜釣舟
島根県　重親　峡人

さよならと雨が手を振り虹わたる
山形県　中村　英明

一葉のムーミン谷の夏見舞
仙台市　松岡　三男

朝摘みのパセリあをあを雨しづく
三郷市　吉村　喜子

新婚やいかにも薔薇の似合ふ家
青森市　小山内豊彦

梅雨明けて近所を回る小買物
徳島市　長山　敦彦

麦こがし平成令和模糊と生く
東京都　天地わたる

俳句あれこれ　なつはづき（俳人）

名前のある幸せ？

イベントでうっかりメダカ数匹を貰ってしまった。今までも金魚を貰ってしまった、甲虫を、鯉を、を繰り返している。「うっかり」ではなく「ちゃっかり」だよね、が家族の見解だ。

世話なんてしないよと言いつつ、いつの間にか私よりも夢中になっている家人。しめしめ……。世話して欲しい訳じゃない。愛してやって欲しいだけだ。誰に貰われるか解らないのに、私の元に来た。この巡り合わせ、立派な奇跡じゃない？

うちに来た子には、愛情の証として名前を付けている。「ねえ、メダカってどうやって見分けるの？　名前付けられないよ」。ううっ、確かに。ただの「メダカ達」じゃ愛が薄すぎるよなあ。メダカは「種」の名前だし。頭を抱えていると、先住の鯉の「シャア」と「前田」が何か言いたげに何度も翻っている。えっ、その名前まさか不満なの？

〈新涼や鯉とのにらめっこに負ける　はづき〉

題字デザイン・イラスト　福田美蘭